

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	14-5	
PDCA	主要事業名	ごみ減量対策事業	部課名	市民経済部環境課	担当	井戸						
					内線	23-3567						
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 2 - 2 単位施策： 循環型社会											
	全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 7,768 千円											
	会計		一般会計		歳出科目： 04.02.02.10.02							
	事業概要等	事業概要： 市民及び事業者に対して、ごみ出しルールの徹底とP R及びごみ減量につながる再利用施策の普及に努め、ごみ排出量の減量化を図る。										
		事業目的： ごみ減量対策のための各種事業を実施し、市民及び事業者へごみ減量につながる再利用施策の普及に努める。										
		事業内容： 生ごみ堆肥化容器等への設置奨励補助金の交付や、ごみ出しアプリを通じた分別方法の配信等をする。										
		問題点・課題等： 家庭系ごみ有料化によるごみ減量効果を継続するため、ごみ分別意識の啓発を強化し、ていくことが課題となる。										
	予算額	主要事業とする理由										
	7,768 千円	ごみの正しい分別の普及やごみ減量のための補助金交付など、ごみ減量を図るための根幹となる事業であるため。										
	財源内訳	得られる成果										
	市費	30 千円	正しいごみの出し方や、資源の分別を普及することで、ごみ排出量が減量し、ごみ処理経費等の負担が減少する。									
	国費	290 千円	目標値や目指すべき状態									
県費	千円	令和2年度		令和3年度		令和4年度		単位				
その他	7,448 千円	市民1人1日あたりのごみ排出量		実績値	646	468	—	グラム				
				目標値	530	508	466	グラム				
				実績値								
				目標値								
D 実績得られた成果と	決算額	得られた成果										
	4,340 千円	令和3年度から始まった家庭系ごみ有料化制度が2年目となり、市民のごみ減量（資源化）に対する意識が更に向上したことにより、目標値を大きく上回る減量を達成することができた。										
	成果指標											
	令和4年度											
	単位											
	市民1人1日あたりのごみ排出量		実績値	460	グラム							
			目標値	466	グラム							
	C 課題の整理	事業の評価・課題	A									
			令和4年度は家庭系ごみ有料化制度が2年目を迎えたことやごみ処理広域化（ごみ・資源の分別及び搬入先の変更）に伴い、ごみ減量に関する情報を市報やSNS等で発信したことにより、市民のごみ減量（資源化）に対する意識が醸成され、目標値466グラムに対して6グラム減の460グラムという大幅な減量を達成することができた。令和5年度はごみ減量目標値達成のお礼として、市民全員に指定資源回収袋を滞りなく配付し、更なるごみ減量（資源化）への意識を高める必要がある。									
A 課題今後の決方向性	今後の事業の方向性	改善推進										
		令和5年度は家庭系ごみ1人1日あたりのごみ減量目標値は、大きく減量の成功した令和4年度の実績より更に2グラム減少させた458グラムと設定し、その目標値を達成した場合には令和4年度に引き続き市民に対してごみ減量協力への還元（指定資源回収袋の配付）を実施する。また、令和12年度までに減量目標値450グラムを達成するため、新たな施策や情報の発信により、ごみ減量化及び資源化の推進を図る。										
	観点別評価	必要性		有効性			効率性					
		①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい			⑦コスト削減 余地					
		②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ある			⑧受益者負担適正化余地					
		③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない			⑨					